

2012年1月3日(火曜日)



社会のグローバル化がますます進み、小学校での外国語活動も開始されるなど、子どもたちの英語能力、特に「聞く」、「話す」力の向上が、より一層求められています。

平成24年の新春を迎え、西川知事が、立教大学の松本茂教授、県立武生東高校英語科教諭の山崎泰代さんと一緒に、コミュニケーション能力を高める英語教育のあり方について語りました。

ALTを活用した福井独自の英語教育を推進



にしがわ いっせい
福井県知事 西川 一誠

—西川知事は就任以来、英語教育に力を入れていますね。

知事 受験のためだけではなく、コミュニケーション能力を高める英語教育を重視してきました。

「学力・体力日本一」の福井の子どもたちは、受験英語は得意で、大学入試センター試験のリスニングでは全国トップクラスの成績を収めています。しかし、実際に聞く、話すといったコミュニケーションは、あまり得意でないように感じます。

そこで、高校を卒業するころには英語で日常会話ができるようにと、さまざまな英語教育を進めてきたところです。

松本 福井に限らず、英語コミュニケーション能力が求められている背景の一つには、企業や大学を取り巻く環境が大きく急激に変わりつつあることが挙げられると思います。

産業界では英語を使える人材を求める声が強くなっていますし、大学でも国際化が進み、専門的な授業を英語で行うなど、あらゆる分野で英語によるコミュニケーションがますます重視されてきています。

—福井県は、他県と比べ、ALT(外国語指導助手)の数が多いそうですね。

知事 「生の英語」に触れる機会を増やそうと、中学校や高校にALTを全国で最も手厚く配置して、本県独自の英語教育を進めています。

例えば、毎年夏休みには、高校生がALTや留学生たちと英語漬けの合宿生活を送る「高校生英語キャンプ」を開いています。

また、今年度からは、授業前やランチタイムなどを活用して、高校生がALTと英会話を楽しむ「イングリッシュ・シャワー」を新たに始めるなど、授業以外も含め、英語を聞く、話す機会を増やしています。



英語だけで生活する「高校生英語キャンプ」

—「授業名人」の山崎さん、実際の教育現場におけるALTとの連携や、授業を行う上での工夫について教えてください。

山崎 ALTには、授業の準備段階から関わってもらっています。また、授業中は、生徒に「生きた英語」を聞かせたいので、ALTから多くの指示を出してもらうなど、一緒に「授業をつくる」形での連携を進めています。

このほか、イングリッシュ・シャワー活動として、昼休みに外国映画をテーマ曲と一緒に、校内放送で流し始めました。「昼休みがさらに楽しみになった」と話す生徒もいるなど、評判は上々です。

英語を学ぶ上で、「楽しさ」というのは重要だと思いますので、授業では、生徒が意見交換を行う場面を多く設けるように工夫しています。自分の英語が相手に通じたと実感することで、生徒の自信や学習意欲、授業の活性化につながります。

—意見交換の方法の一つに、「ディベート(討論)」があります。昨年の県高校生英語ディベート大会では、武生東高校のチームが優勝したそうですね。

松本 英語を聞く、話す、読む、書く、それぞれの能力を総合的に使うための基礎となる「考える力」を育成する上で、大いに役に立つのがディベートです。

山崎 県大会での優勝をきっかけに、生徒たちの英語を話すスピードが速くなり、話そうという意識も強まりました。何より、物事を論理的に考える力が以前よりも高まるなど、コミュニケーション能力が大きく向上したと感じています。

生徒が生の英語に触れる機会を充実し、教員の指導力向上も目指す



まつもと しげまさ
松本 茂さん

立教大学経営学部国際経営学科教授。専攻はコミュニケーション教育学。「福井県英語力向上推進会議」委員、日本ディベート協会専務理事、文部科学省「外国語能力向上に関する検討会」委員などを務める。

—このほか、生徒の英語力を高めるために、県ではどのような活動を進めているのですか。

知事 生徒自身が現地での生活を実際に体験することで、英語コミュニケーション能力が大きく高まると思います。そこで、今年3月には初めての試みとして、県内の高校生100人を対象に、アメリカのニュージャージー州に15日間、短期留学してもらおう予定です。

生徒たちには、現地で生活に密着した「生の英語」に肌で触れることで、より高いレベルの英語を身に付けてほしいですね。

松本 若い時に、このような貴重な体験の機会を与えてもらえる福井県の高校生は、本当に恵まれていると思います。

—生徒の英語力を高めるには、教える側の教員の資質向上も重要ですね。

知事 教員がレベルアップすることで、授業が活発になり、子どもたちの能力もますます高まると思います。そこで毎年、中学、高校の英語教員を対象に「集中セミナー」を開催しています。

これは、いわば先生に対する「英語の特訓」のようなもので、英語の専門家を講師に招き、3、4日間集中して、模擬授業や講義、演習などを、すべて英語で行います。前回のセミナーには、松本先生にも講師としてお越しいただきました。

松本 セミナーでは、ディベートの訓練を中心に行いました。福井の教員の皆さんは、とても真剣に取り組まれ、講師の私も、とても気持ち良く指導ができました。

—山崎さんは、県の「授業名人」に任命されていますね。授業の質を高めるために、日ごろから工夫していることはありますか。

山崎 自己研さんとして、通勤時に車の中で英語を聞いたり、インターネットで英文記事を読むなど、毎日「生の英語」に触れるように心がけています。

松本 生徒に「先生も勉強している」という姿を見せることも、非常に大切だと思いますね。



やまがき やすよ
山崎 泰代さん

県立武生東高校英語科教諭。分かりやすい授業を実践する「授業名人」に今年度、県が任命。



「土曜スクール」でALTと一緒にクッキングや英会話を楽しむ高校生(福井商業高校)

—福井県の英語教育を、今後どのように進めていくのでしょうか。

知事 新たに設けた「県英語力向上推進会議」で、松本先生をはじめ専門家と現場の教員の皆さんに参加していただき、技術的な課題や、システムの、モデル的に進めていく活動など、総合的な議論や検討を進めています。

このほか、教員向けの指導教材づくりなどにも力を入れながら、コミュニケーション能力を高めるための本県独自の英語教育を、さらに強化していきたいと思います。

今年の抱負

—最後に、今後の抱負についてお聞かせください。

山崎 目の前にいる生徒たちの英語力を伸ばすと同時に、知識を広げ、考える力をどのように育てるかに主眼を置きながら、自分の授業をさらに改善していきたいです。生徒たちが、その場で中身のある話題について英語で意見を交換し合えるような授業を目指していこうと思います。

松本 24年度からは中学校で、25年度からは高校で、それぞれ英語教育カリキュラムの大幅な変更が予定されています。そこで、現場で教える教員の皆さんには、どのような授業をつくり上げていくか、じっくりと議論を重ねてほしいと思います。

また、子どもたちには、英語を習得することで、友達が増え、さまざまな考え方を知ることができ、さらには自分自身の世界が広がる、という大きなメリットがあることを知ってもらい、英語学習により一層励んでほしいですね。

知事 「学力・体力日本一」、「幸福度日本一」の福井県の子どもたちに、受験英語とコミュニケーション英語のバランスのとれた指導をどのように行うかが大きな課題です。この双方を、ともに高めることができる英語教育に挑戦していきたいと考えています。ひいては、日本語の能力アップにもつながっていくのではないのでしょうか。また、本日は英語がテーマですが、中国語なども重要です。外国語教育を総合的に進めながら、子どもたちの国際力を養い、グローバル社会で活躍できる人材を育てていきたいですね。

 **BACK**

